

アリア「あなたは誠実な心を持っています」 K.217 の上演について —— ザルツブルクに滞在したもう一つのイタリア一座 ——

野口秀夫

1. はじめに

犬輔：アリア「あなたは誠実な心を持っています」 K.217 に関するアルフレート・アインシュタインの解説を読んだけど、突っ込みどころが満載なんです。引用しましょう^{注1}。「これはバルダッサーレ・ガルツピの《結婚 [Nozze]》のための補充曲である。このオペラは 1755 年ボローニャでの初演以来、まさにヴェネツィア風オペラ・ブッフアの父と呼びうる、愛すべき“ブラネルロ [il Buranello]” [ヴェネツィアのブラーノ島に生まれたガルツピのこと] の大成功作の一つとなっていた。ゴルドーニのリブレットの主役、侍女ドリーナは領主の意志によって、召使のティッタとミンゴーネの二人の求婚者のどちらかを選ばねばならなくなるが、実はどちらも嫌いなのである。“笑う三人目の男”、執事マゾットが以前から彼女をこっそり獲得していたからである。原作では、ドリーナは彼女が思いのままにあしらっている二人の競争者に話しかける。しかしザルツブルクへやって来た一座は、明らかに座員を縮小していたので、ティッタとミンゴーネの代りにたった一人の恋人役しか登場させえなかった。ドリーナは彼をきわめて愛想よくはねつけることになる。「あなたの心は変らないでしょう」と彼女は言う、「熱い恋の時期のあいだはね。けれど結婚したらどうなることでしょうか？ わたしはあなたを信じません。束縛されたくもありません！」。

鳥代：あら、登場人物も内容もサルティの《2 人が争えば 3 人目が得をする Fra I due litiganti il terzo gode》と全く同じなのですね^{注2}。

犬輔：それはそうなんだけど、アインシュタインの言う「ガルツピの《結婚》のための補充曲」が本当なのかどうか、また「ザルツブルクへやって来た一座」とは、1776 年に滞在したピエトロ・ローザー座^{注3}の 1 年前にもう一つのイタリア一座が滞在していたのか、さらに「座員を縮小して一人の恋人役しか登場させえなかった」と決めつけることができるのか、などの疑問点をはっきりさせたいんです。

教授：そもそもアインシュタインの論考自体いくつかあり、それぞれが少しずつ異なったニュアンスとなっている。それらを比較検証してみることを勧める。まずは、一次資料としてのリブレットを調査することから始めよう。

2. アリア「あなたは誠実な心を持っています」 K.217 の歌詞の位置づけ

2.1 アリア「あなたは誠実な心を持っています」 K.217 (1755.10.26) の歌詞

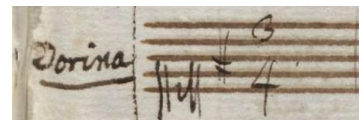
鳥代：早速、モーツァルトの歌詞を訳しましょう。

表 1 アリア「あなたは誠実な心を持っています」 K.217 の歌詞

Dorina Voi avete un cor fedele Come amante appassionato; Ma mio sposo dichiarato Che farete? cangerete? Dite, allora che sarà? Manterrete fedeltà? Ah non credo, Già prevedo Mi potreste corbellar, Non ancora, Non per ora Non mi vùò di voi fidar. (Da Capo)	ドリーナ あなたは誠実な心を持っています 情熱的な恋人の間はね。 でも、私の夫になったら あなたはどうしますか？ 変わるでしょう？ おっしゃって、そしてどうなるのか？ あなたは忠実であり続けますか？ ああ、そうは思いません、 あなたが私を笑うかもしれないことを もう予測していますが、 まだ、 今のところは、 あなたを信用したくないのです。(ダカーボ)
--	--

犬輔：ドリーナ役の歌であることはモーツァルトによって指定されているのですか。

鳥代：自筆譜のソプラノの段の開始部にそう書いてあります(右図ファクシミリ)^{注4}。



犬輔：役名が指定されているということはオペラのアリアとして歌われることを想定していたと考えていいのだろうか。

教授：いや、役名の記入がオペラの代替・挿入アリアとして作曲されたことのみ目安にはならない。何故なら役名が記入してあっても、オペラとは独立したコンサート用アリアとして作曲された曲もあるからだ。分かる範囲で表 2 に整理しておこう^{注5}。

表 2 役名の記入のあるアリアの用途

コンサート用アリア	オペラへの挿入アリア	オペラへの代替アリア
K.78, K.79, K.272, K.369, K.374	K.256, K.578	K.418, K.419, K.420, K.582, K.583

犬輔：K.217 が表 2 のどれに相当するかは別の調査が必要だということですね。

鳥代：翻訳に関してひと言述べておきます。Voi は通常「2 人称複数の男性・女性形」ですので、ティッタとミンゴーネを前にして「あなたたち」と歌っているとも解釈できますが、そうだとすると「誠実な心 un cor fedele」「恋人 amante」「夫 sposo」が単数であることと矛盾します。したがって Voi を「(古) (敬称として) あなたが、あなたを」と訳しました。

犬輔：ということなら相手は一人なのですね。ティッタあるいはミンゴーネに向かって歌っているということになるので、アインシュタインの指摘は正しいのかも知れない。

教授：いや、その判断はまだできない。ガルツピやサルティの歌詞がどうなっているのかを見てから議論しよう。

2.2 ゴルドーニ／ガルツピ《結婚》(1755 初演版) の歌詞

鳥代：ではガルツピ《結婚》(1755 ボローニャ初演)^{注6}の第一幕 第 4 場の後半を表 3 に訳します。なお、少なくともこの部分に関しては、他劇場における上演版である《ドリーナの結婚》(1760 ローマ)^{注7}、《結婚》(1770 レッジョ・エミリア)^{注8}を調べましたが、全く同じでした(ト書きが記入漏れしているという違いはありましたが)。

表 3 ガルツピ《結婚》(1755) 第一幕 第 4 場

<p>Titta Lo dica pur, già so ch'io son l'elletto. Mingone Preferire da lei sentirmi aspetto. Dorina Tutti due meritate ma tutti due mi fate un poco di timore; ah sceglierei se vi vedessi il core. Voi avete un bel visetto (a Titta) ritondetto, vezzosetto; voi avete un occhio bello (a Mingone) briconcello, ladroncello. Ma quel core come sta? Come stiamo a fedeltà? Ah furbetto, graziosetto, mi vorresti corbellar. Non ancora, non per ora, non mi vuo' di voi fidar.</p>	<p>ティッタ 言っておくが、私はすでに選ばれている。 ミンゴーネ それは彼女から聞きたいものだ。 ドリーナ あなたたちは二人ともそれに値します。 でもあなたたちは二人とも私を 少し不安にさせます。 ああ、あなたたちの心が見えるなら、私は選ぶでしょう。 あなたは素敵な丸くて魅力的な (ティッタに) 小さな顔をしています。 あなたは美しい目をした (ミンゴーネに) 小さな悪党、小さな泥棒です。 でも、その心はどうでしょうか? 私たちはどのように忠実なのでしょう? ああ、賢くて親切な人よ、 あなたは私を笑いたいのでしょう。 まだ、今のところは、 あなたを信用したくないのです。</p>
--	---

犬輔：ティッタとミンゴーネの二人を前にし、それぞれに対して歌っていますね。Voi が単数の敬称として「あなたが、あなたを」を意味するという鳥代さんの解釈に納得です。一方、先行するレチタティーヴォに「あなたたち二人とも Tutti due」という言い方が出て来るのは複数を意味しています。この表現の対比はゴルドーニの意図するところなのでしょう。

鳥代：ゴルドーニ／ガルツピのオリジナルの歌詞はやや複雑に感じられます。その点、モーツァルトの歌詞は「恋人 amante」「夫 sposo」があることで現在と将来の対比が分かりやすく、ドリーナの賢さや性格もにじみ出ています。

2.3 サルティ《2 人が争えば 3 人目が得をする》(1782 初演版) の歌詞

犬輔：参考までにサルティ《2 人が争えば 3 人目が得をする》(1782 ミラーノ)^{注9}から第一幕 第 6 場におけるドリーナの歌詞を見ておきましょう。表 4 に訳します。

表 4 サルティ《2 人が争えば 3 人目が得をする》(1782) 第一幕 第 6 場

<p>DORINA Tutti due meritate; Ma tutti due mi fate Un poco di timore; Ah sceglierei, sa vi vedessi il core. Sento Amore, che mi dice, Che fedele a me sarete. (a Tit.) Ch'io per voi sarò felice Sento il core a replicar. (a Min.) Non mi fido del mio core. Menzognero Amor pavento; E non posso in tal momento La mia fiamma palesar. (parte.)</p>	<p>ドリーナ あなたたちは二人ともそれに値します。 でもあなたたちは二人とも私を 少し不安にさせます。 ああ、あなたたちの心が見えるなら、私は選ぶでしょう。 愛の神がこう言っているのが聞こえます、 あなたは私に忠実ですと。 (ティッタに) 私は幸せになるとあなたに 心から答えたいと思います。 (ミンゴーネに) 私は自分の心を信じられません。 嘘をつく愛の神は不安です。 そして現時点では私の炎を 明らかにすることはできません。 (退場)</p>
---	--

鳥代：ゴルドーニから随分遠くに行っていますね。オリジナルでドリーナは自分の意志によって二人を断る方向であったのに、こちらは愛の神 Amore の声を引き合いに出して意志の灰めかしすら後退しています。改訂者は性格描写を避けていますね。

2.4 ガルッピ《結婚》の1762異版による歌詞

教授：ガルッピ《結婚》にはロンドンのキングズシアターにおける1762.2.1の上演があるから調べるように。

犬輔：はい。タイトルは《ドリーナの結婚、あるいはここで2人の争いの間に3人目が得をする Le nozze di Dorina, o sia Qui tra due litiganti il terzo gode》^{注10}となっており、副題がサルティのリブレットのタイトルを先取りしていますよ。

鳥代：リブレット所蔵図書館の書誌情報^{注11}ほか多くのサイトではガルッピの作品としています。coragoだけはジョアッキノ・コッキ Gioacchino Cocchi (1720-1788)の作品であるとしています^{注12}。因みにスタンレー・セイディは作曲者を併記しています^{注13}。

犬輔：リブレットはウェブで閲覧できませんが、アリアの一覧が分かるサイト^{注14}がありましたので、第一幕のアリアを対比した表5を作ってみました。

表5 ゴルドーニ『結婚』によるオペラの第一幕アリア対応表

Le Nozze 1755, Bologna	Le nozze di Dorina, o sia Qui tra due litiganti il terzo gode 1762, London	Fra i due litiganti il terzo gode 1782, Milano
La voglio così (Conte, Contessa) Act 1, Scene 1	La voglio così (Conte, Contessa) Act 1, Scene 1	La voglio così (Conte, Contessa) Act 1, Scene 1
Vuò soffrire a un certo segno (Conte) Act 1, Scene 1	Deh, comandar lasciatemi (Conte) Act 1, Scene 1	Vuò soffrire a un certo segno (Conte) Act 1, Scene 1
Ah, dove è andato (Contessa) Act 1, Scene 2	In braccio a mille furie (Contessa) Act 1, Scene 2	Ah, dove è andato (Contessa) Act 1, Scene 2
		Nè dica mai di nò (Livietta) Act 1, Scene 3
		Da speranza, e timor combattuto (Quartet) Act 1, Scene 5
Con Dorina, per esempio (Masotto) Act 1, Scene 3	Il mio male è mal d'amore (Masotto) Act 1, Scene 3	Un affedio alla lontana (Masotto) Act 1, Scene 5
Voi avete un bel visetto (Dorina) Act 1, Scene 4	Ho un cor sì tenero (Dorina) Act 1, Scene 4	Sento amore, che mi dicembre (Dorina) Act 1, Scene 6
Come un agnello (Mingone) Act 1, Scene 5	Come un agnello (Mingone) Act 1, Scene 5	Come un agnello (Mingone) Act 1, Scene 7
Quel che mi bolle in testa (Titta) Act 1, Scene 6	È tanto tempo che ti voglio bene (Titta) Act 1, Scene 6	Quel che mi bolle in testa (Titta) Act 1, Scene 9
Mi contento di un sol cuore (Livietta) Act 1, Scene 7	Al respirar delle aure (Livietta) Act 1, Scene 7	
Gran disgrazia è nascer donna (Dorina) Act 1, Scene 8	Oh, che imbroglio è il nascer donna (Dorina) Act 1, Scene 8	Donne, che m'ascoltate (Dorina) Act 1, Scene 11
Ah Dorina, mie viscere, amabile (Quartet) Act 1, Scene 8	Ah, Dorina, mie viscere, amabile! (Quartet) Act 1, Scene 8	Ehm, ehm, ehm (Masotto, Dorina) Act 1, Scene 12-18 (Finale)

鳥代：第4場のドリーナのアリアが「私の心はとても優しく Ho un cor sì tenero」となっていることに興味が湧きます。歌詞全体は分からないのでしょうか。

教授：ゴルドーニ／ガルッピ《田舎の哲学者 Il filosofo di campagna》(1760 クレモナ上演)^{注15}の第二幕 第10場にあるレスビーナのアリアが同じ歌い出しの歌詞である。参考にしたまえ。

鳥代：はい、表6に訳しましょう。

表6 ゴルドーニ／ガルッピ《田舎の哲学者》(1760) 第二幕 第10場レスビーナのアリア

Ho un cor sì tenero, sì dolce ho l'animo che tutti gli omini mi fan pietà; Quando sospirano, quando mi pregano no non so fingere la crudeltà.	私の心はとても優しく、 魂はとても愛情がこもっているので、 すべての人が 私を憐れみます。 彼らがため息をついたとき、 彼らが私に懇願したとき、 いいえ、私は残酷さを偽る方法が わかりません。
--	---

犬輔：レスビーナはこのアリアで誰に向かって何を言いたいのでしょうか。

鳥代：この場面では、送られてきた豪華な宝石を娘への求愛の贈り物と勘違いしたドン・トリテミオが、娘からこれは女中のレスビーナが受け取るべきものと言われ、レスビーナに本意を問います。レスビーナはレチタティーヴォでこう答えます。「もし友好的な運命が計画通りに進むなら、私は喜びを受け入れるし、その約束も受け入れるつもりです」。したがって、アリアは「他人の恋人を横取りしたのではなく、他人の恋人から乗り換えられた私」が関係者に向かって後ろめたさの心情を吐露しているのでしょうか。

犬輔：ロンドン上演でドリーナがこの歌詞を歌う場合の状況はどうなるのでしょうか。

鳥代：ティッタとミンゴーネを前にして、恋人候補が別にいることへの後ろめたさの心情を吐露するアリアということになるのではないのでしょうか。

2.5 アリア「あなたは誠実な心を持っています」 K.217 の歌い方 (案)

教授：では、以上の検討を受けて、保留になっていた K.217 がオペラの中で歌われたものだとすれば、どのようなシチュエーションだろうか。

鳥代：ゴルドーニ／ガルツピのオリジナルがはっきりと単数の Voi を使用しているので、それを元にしてモーツァルトの歌詞の Voi も単数であることに間違いありません。

犬輔：1762 異版のように「心情の吐露」であればティッタとミンゴーネを前にして、必ずしも順次話しかける歌詞にする必要はないことが分かりましたが、K.217 の歌詞の場合は呼びかけがはっきりしているのでやはり Voi で順次話しかけざるを得ませんね。

教授：アインシュタインは 1945 には前述のとおり「ザルツブルクへやって来た一座は、明らかに座員を縮小していたので、ティッタとミンゴーネの代りにたった一人の恋人役しか登場させえなかった」と述べているが、1937 には「ガルツピのオリジナルでは、ドリーナは二人の求婚者に疑問を表明するが、モーツァルト版ではたった一人に対してである。したがって、このテキストはまったく別のオペラで使用された可能性がある」^{注 16}と述べていた。いずれにしてもガルツピのオリジナルのオペラには代替アリアとしてそのまま使えないという意見だ（『ケッヒェル 6 版』および『ケッヒェル 2024 版』でも「モーツァルトのアリアのテキストは一人の求婚者にのみに宛てられている」とされている）。

鳥代：こう考えてはどうでしょう。曲の前半をティッタに向かって歌い、後半の繰り返しをミンゴーネに向かって歌うという方法です。

教授：K.217 をガルツピ《結婚》の中で、しかも配役を減らさずに、歌うことができるということだね。これは楽曲構成の検討の後に再度議論しよう。

3. アリア「あなたは誠実な心の持主」 K.217 の上演の位置づけ

犬輔：アインシュタインは「ザルツブルクへやって来た一座」が K.217 を歌ったと言っています。当時のザルツブルクのオペラ上演の状況はどうだったのでしょうか。

教授：ザルツブルクの劇場の変遷、旅回りのイタリア一座、そして日記に書かれた演奏の記録についての調査が参考となろう。

3.1 ザルツブルクの劇場

鳥代：入手できるザルツブルクの資料をまとめてみました^{注 17}。「ザルツァッハ右岸のハンニバル広場（現マカルト広場）に面した一角にかつての大司教パリス・ロードゥローン（在位：1619-53）が 1631 年（1625 年とも）に建てた舞踏会場があった。約 45×18 メートルの 3 階〔日本式 4 階〕建てで、屋根裏部屋まで仮天井のない広い部屋があった。ここでは舞踏会だけでなく、演劇などのさまざまなイベントも行われた。17 世紀から 18 世紀にかけて、旅行演劇の一座が短期間または長期間ここで公演することがよくあった。そこでは宮廷向けのコメディだけでなく、市民向けのコメディも上演された」。

犬輔：舞踏会場が劇場として使われたのはコメディだけだったとされているんですね。

鳥代：説明を続けるわね^{注 18}。「舞踏会会場はこの新しい目的に適さなくなったため、1775 年に大司教ヒェロニムス・コロレード伯爵は劇場への改築を推進した。市民の抵抗の末、市長のイグナツ・アントン・フォン・ヴァイザーさえも退位したが、この劇場は宮廷劇場 Fürsterzbischöfliche Hoftheater に改装された。宮廷劇場は 2 階〔日本式 3 階〕建てで、ボックスとその上に 700 人を収容できるギャラリーがあった」。

犬輔：シーデンホーフエンの 1775.8.26 付け日記によれば「来月開場される新しいコメディ劇場 neue Commedie Haus に行った」^{注 19}とあります。でも実際に柿落しがあったのは 1775.11.16 でクリスティアーン・ハインリヒ・シュミットの『君侯の好意 Die Gunst des Fürsten』が上演され、シラーの劇作品がそれに続いたといえます^{注 20}。

鳥代：「新コメディ劇場（新宮廷劇場）の目的は劇場に来る社会的階層を貴族だけではなく一般市民にまで広げることであった」^{注21}とされていますが、「3年後に大学劇場が閉鎖され、新しい宮廷劇場が名実ともにザルツブルクにおける演劇・オペラの拠点となったが、その公演はもっぱら旅回りの劇団に委ねられたため、地元の作曲家たちの出番はほとんどなかった（但し、シカネーダーやベームとモーツァルトとの関係は例外）」^{注22}といえます。

犬輔：そうすると、レーオポルトによって自筆譜に記入されている1775.10.26の日付からすると、K.217は開場が遅れている新宮廷劇場における旅回りの劇団による上演のために作曲されたものなんだろうか。

教授：新宮廷劇場は演劇の劇場としてスタートしたから、この時点でオペラが上演された可能性はないと考えられる。オペラが上演されるのは1776.8以降のことである^{注23}。

3.2 旅回りのイタリア一座

教授：アインシュタインは1937年にこう述べている^{注24}。「カール・オットー・ワグナーの『ザルツブルク宮廷劇場（1775-1805）』（ザルツブルク地域研究協会のお知らせ L、1910）、およびエミール・カール・ブリュムルの『モーツァルトの友人や家族から』（ヴィーン、1923）には残念ながら、1770年代以降にザルツブルクを訪れたイタリアの旅行団に関するデータは含まれていない」としているが、その一方で R. テンシェルトから教示してもらったという『ザルツブルク週刊演劇ジャーナル』の内容を紹介している。

鳥代：そのジャーナルをウェブで見つけました。1775.11.18, 22, 25 付けの週刊誌合本^{注25}から引用しましょう。

<p>Von den Schauspielgesellschaften, welche hier in Salzburg gespielt haben.</p> <p>Eine italienische Truppe.</p> <p>Sie gehört nicht hieher; wir merken sie bloß wegen einigen würdigen Leuten an. S. Emirio war Directeur, und in allen Fächern zu brauchen. D. Marzocchi, die Truppführerin, prima Donna, ihres Alters ungeachtet, im Tragischen stark. S. Casparo, erster Liebhaber, und sehr guter Brighella. Scari, Arlequin und Tänzer. Diese Truppe hielt sich beynahe anderthalb Jahre hier auf, spielte auf dem Rathhause und auf der Trinkstube.</p>	<p>ここザルツブルクで公演した劇団から</p> <p>イタリア一座。</p> <p>この一座は重要ではないが、私たちがそれに注目するのは、一部の相応しい人々のためだけである。シニョール・エミーリオが監督であり、あらゆる分野で優れていた。座長の ダーメ・マルゾッチは偉大なプリマドンナで、年齢によらず、悲劇に強かった。シニョール・カスパロ、第一恋人役、そしてとても良いブリゲッタ役 [コンメディア・デッラルテの仮面を付けた道化役者]。スカリ、アルルカン、そしてダンサーたち。この一座はほぼ1年半ここに滞在し、市庁舎や酒場で上演した。</p>
--	---

犬輔：重要なのは、このエミーリオ一座が劇だけでなく、オペラも演じたのかどうかです。

教授：「プリマドンナ」と書かれており、「第一恋人役」というのも「プリモウオーモ」のことであるから、これらがオペラ用語であることからして、オペラが主体の一座であったと推定される。特にマルゾッチ夫人が女優業だけであれば、「年齢によらず」という但し書きはつかないであろう。

鳥代：1775.11 まで1年半滞在したということは1774.5に既に来ていたということですね（アインシュタインの仏訳1937で「一年の半分 la moitié de l'année」とあるのは誤訳でしょう）。でもこの期間は改装工事中のため宮廷劇場でのオペラ上演ができない期間でした。

犬輔：だから市庁舎や酒場で上演したんですね。

鳥代：市庁舎の演奏環境を見ておきましょう。劇場の建設と同じく利用を一般市民にまで広げる目的でコロレドは市庁舎に新しく舞踏会場を開きました。ローレンツ・ヒューブナーの報告から引用します^{注26}。「市庁舎内の2階 [日本式3階] には1775年に大司教ヒェロニムス・コロレド閣下のご下賜と市の財務負担により仮装舞踏会場 Redoutensaal が現在 [=1792年] ある姿で準備された。そこにはオーケストラスペースと多くのランプとシャンデリアが備えられており、その上部にはレース模様の懸華装飾が施され、非常に楽しげで洒落た効果を出している。そしていくつかの小さな部屋とサイドルームがあり、客人のさまざまな用途に応じられるように心地よく調度が施されている」。

犬輔：以上の資料からは K.217 を歌ったソプラノ歌手はマルゾッチ夫人ということになりますが、どういう訳かアインシュタインはケツヒェル第3版（1947）の K.217 の項ではマルゾッチ夫人に言及せず、ガルツピ《結婚》のヴィーン上演（1764）でドリーナを歌ったのがカタリーナ・リストリーニであったと頓珍漢な記述をしており、紛らわしいのです。

鳥代：エミーリオ一座のマルゾッチ Marzocchi の綴りも、マッツオッキ Mazzocchi（アインシュタイン1937）^{注27}、マッツオッチ Mazzocci（アインシュタイン1947=ケツヒェル第3版 K.209 の項）と書き写し間違いが多いようです。なお、色々調べましたが歌手の一覧にこれらの名前は載っていませんでした。一方、アインシュタイン（1937）はテノールのカスパロ Casparo が K.209 と K.210 を歌ったのではないかと説明しています。

3.3 日記に書かれた演奏の記録

犬輔：シーデンホーフエンの日記は 1774.10.10 から 1782.10 まで記録されていますが、エミリーオー座に関する記述はなく、K.217 の演奏についても何も書かれていません。

鳥代：ナンネルの日記^{注 28}は 1775.5.22 から 1783.10.31 まで断続的に記録されています。但し 1775.10 の頃の日記は欠けています。一つだけ気になる記述がありますので引用しましょう。なお、注記はヴォルフガングの筆跡です。

Den 29ten ist ein concert in RathHaus Saal geweste, eine Sängerin und ein geiger# haben sich hören lassen. #Erschröcklicher esel!	[1775 年 5 月] 29 日に市役所ホールでコンサートがあり、女声歌手とヴァイオリニスト#が演奏しました。 #ひどいロバ!
---	--

犬輔：アンガームュラーの注釈によれば女声歌手が誰なのか不明、ヴァイオリニストはアントニオ・ロツリかもしれないといいますが、ぼくはこの両者がエミリーオー座のメンバーではないかと考えます。

4. アリア「あなたは誠実な心を持っています」K.217 の構成

鳥代：わたしは曲の前半をディッタに向かって歌い、後半の繰り返しをミンゴーネに向かって歌うという案を出しましたが、そのような歌い方ができるかどうか、曲の構成を表 7 に纏めました。

表 7 アリア「あなたは誠実な心を持っています」K.217 の構成

小節	詩行	調性	形式
8-16	Voi avete un cor fedele, un cor fedele come amante appassionato, come amante appassionato; あなたは誠実な心を持っています、誠実な心を。情熱的な恋人の間はね、情熱的な恋人の間はね。	G-e-G	Andantino Grazioso 3/4
17-22	ma mio sposo dichiarato, dichiarato, che farete? cangerete? でも、私の夫になったら、なったら、あなたはどうしますか？ 変わるでしょう？	G	第 1 節
23-28	dite, allora che sarà? manterrete fedeltà, fedeltà? おっしゃって、そしてどうなるの？ あなたは忠実のまま、忠実のままですか？	D-A	
30-31	Ah non credo! ああ、そうは思いません！	D	Allegro C
32-37	Già prevedo, mi potreste corbellar, mi potreste corbellar. もう予測しています、あなたが私を笑うかもしれないと、私を笑うかもしれないと。	D	第 2 節
38-55	Non ancora, non per ora, non mi vùo di voi fidar, di voi fidar, non mi vùo di voi fidar. まだ、今のところは、あなたを信用したくない、あなたを信用、あなたを信用したくない。	D	
56-70	Ah non credo! Già prevedo, mi potreste corbellar. Non ancora, non per ora, non ancora, non per ora, non mi vùo, non mi vùo di voi fidar, non mi vùo di voi fidar, di voi fidar. ああ、そうは思いません！もう予測しています、あなたが私を笑うかもしれないと。まだ、今のところは、まだ、今のところは、したくない、あなたを信用したくない、あなたを信用したくない、あなたを信用、あなたを信用したくない。	D	第 2 節
74-81	Dite, dite, che farete? dite, dite, cangerete? おっしゃって、おっしゃって、あなたはどうしますか？ おっしゃって、おっしゃって、変わるでしょう？	D-G-D	第 1 節
81-90	Voi avete un cor fedele, un cor fedele come amante appassionato, appassionato; あなたは誠実な心を持っています、誠実な心を。情熱的な恋人の間はね、情熱的な間はね。	G	Primo Tempo 3/4
90-95	ma mio sposo dichiarato, dichiarato, che farete? cangerete? でも、私の夫になったら、なったら、あなたはどうしますか？ 変わるでしょう？	G	第 1 節
96-101	dite, allora che sarà? manterrete fedeltà, fedeltà? おっしゃって、そしてどうなるの？ あなたは忠実のまま、忠実のままですか？	C-D	
103-104	Ah non credo! ああ、そうは思いません！	G	Allegro C
105-110	Già prevedo, mi potreste corbellar, mi potreste corbellar. もう予測しています、あなたが私を笑うかもしれないと、私を笑うかもしれないと。	G-D	第 2 節
111-129	Non ancora, non per ora, non mi vùo di voi fidar, di voi fidar, non mi vùo di voi fidar. まだ、今のところは、あなたを信用したくない、あなたを信用、あなたを信用したくない。	G-e	
130-133	Ma mio sposo dichiarato, che farete? cangerete? でも、私の夫になったら、あなたはどうしますか？ 変わるでしょう？	G	第 1 節
134-137	dite, allora che sarà? manterrete fedeltà? fedeltà? fedeltà? おっしゃって、そしてどうなるの？ あなたは忠実のまま、忠実のまま、忠実のままですか？	D	
137-150	Ah non credo! Già prevedo, mi potreste corbellar, corbellar. Non ancora, non per ora, non ancora, non per ora, non mi vùo, non mi vùo di voi fidar, non mi vùo di voi fidar. ああ、そうは思いません！もう予測しています、あなたが私を笑うかもしれない、笑うかもしれないと。まだ、今のところは、まだ、今のところは、したくない、あなたを信用したくない、あなたを信用したくない。	G	第 2 節

小節	詩行	調性	形式
150-156	Voi avete un cor fedele, un cor fedele come amante appassionato. あなたは誠実な心を持っています、誠実な心。情熱的な恋人の間はね。	G	Primo Tempo 3/4 第 1 節
157-173	Non ancora, non per ora, non mi vùò di voi fidar, non mi vùò di voi fidar, non ancora, non per ora, non mi vùò di voi fidar, non mi vùò di voi fidar, non mi vùò di voi fidar, non mi vùò di voi fidar. まだ、今のところは、あなたを信用したくない、あなたを信用したくない、まだ、今のところは、あなたを信用したくない、あなたを信用したくない、あなたを信用したくない、あなたを信用したくない、あなたを信用したくない、あなたを信用したくない。	G	Allegro C 第 2 節

犬輔：確かに最初の Andantino Grazioso と Allegro をティッタに向かって歌い、繰り返しの Primo tempo と Allegro をミンゴーネに向かって歌うことができますね。そして 3 回目の Primo tempo と Allegro は兩人に交互に目配せしながら歌うことも可能です。じっさいオリジナルの第 2 節でも vorresti (あなたはしたいなのでしょう) のところでは兩人に向かって交互に歌わざるを得なかったわけですから、そのような解決法はすでに内在していたと言えるでしょう。

教授：そうすることにより、ティッタ向けは 74 小節、ミンゴーネ向けは 70 小節で、おのおののテンポや詩節の内訳も同等になる。鳥代さんの説は魅力的だ。

鳥代：歌手への要求はコロラトゥーラがあるものの、音域は d'–h" であってそんなに難しいものではありません。

5. まとめ

鳥代：アリア「あなたは誠実な心を持っています」K.217 について明らかになったことをまとめます。まず、リブレットはゴルドーニ／ガルッピ《結婚》の第一幕 第 4 場のドリーナのアリア「あなたは素敵な小さな顔をしています」を書き換えたものです。作者は不明ですが、モーツァルト自身の可能性も排除できません。変更点は二人の相手に順次向かうト書きを K.217 では無くし、曲の前半と後半で向かう相手を変えることにより同じ効果を出せる楽曲構成にしたのではないかというのがわたしの仮説です。こうすることによって、二人を相手とするオペラ挿入曲としてはもとより、相手のいないコンサート用アリアとしても使えることになり、適用の幅が広がることが期待されます。

犬輔：自筆譜に記載の日付 1775.10.26 頃にザルツブルクに滞在していた旅回りのイタリア一座は、エミーリオ座であり、プリマドンナはマルゾッチ夫人でした。彼らがガルッピ《結婚》を上演したとすれば、宮廷劇場が再建工事中だったことから、同年、市庁舎に新しく開かれた仮装舞踏会場が会場となったものと思われます。

教授：歌手については、宮廷劇場が閉鎖中であつたため活動の場を求めていたであろうザルツブルクの歌手がエミーリオ座の上演で歌った可能性もありえよう。しかし、一座のプリマドンナがドリーナを歌わない配役はありえるだろうか(プリマドンナの年齢を考慮に入れるとどちらとも言えないが)。一方、コンサート用アリアとして作曲されたとなると、モーツァルト家のタンツマイスターザールでの演奏会でザルツブルクの歌手が歌ったのかもしれない。しかし、そうであればナンネルの日記に書かれるはずだが、前述のとおりこの時期の日記は欠落していて分からないのである。シーデンホーフエンは市庁舎での舞踏会とはこまめに記録しており^{注 29}、1776 年のピエトロ・ローザ一座のオペラの記録も克明であった^{注 30}。それにもかかわらず前述のとおりエミーリオ座については一切触れていない。K.217 に関する謎はまだ解決には程遠いのである。

注 1：アインシュタイン、アルフレート (1961) / 浅井真男 訳『モーツァルト、その人間と作品』白水社、1961、488–489 頁。原書は Einstein, Alfred (1945). Mozart: His Character, His Work, translated by Arthur Mendel and Nathan Broder, Oxford University Press, 1945.

注 2：野口秀夫『モーツァルトからの敬意表明、その返礼としての敬意表明？——サルティの《2 人が争えば》およびダ・ポンテの《音楽の蜂》——』神戸モーツァルト研究会 第 315 回例会 ∞

注 3：野口秀夫『レチタティーヴォとアリア「幸せの影よ／私はお前を残していく」K.255——ザルツブルクに滞在したイタリア一座との交流——』神戸モーツァルト研究会 第 305 回例会 ∞

注 4：Berlin, SBB Mus.ms.autogr. Mozart, W. A. 217 ∞

注 5：NMA の楽譜に記載の役名がボールド体のものを示した (イタリック体の場合は編集者の追記)。

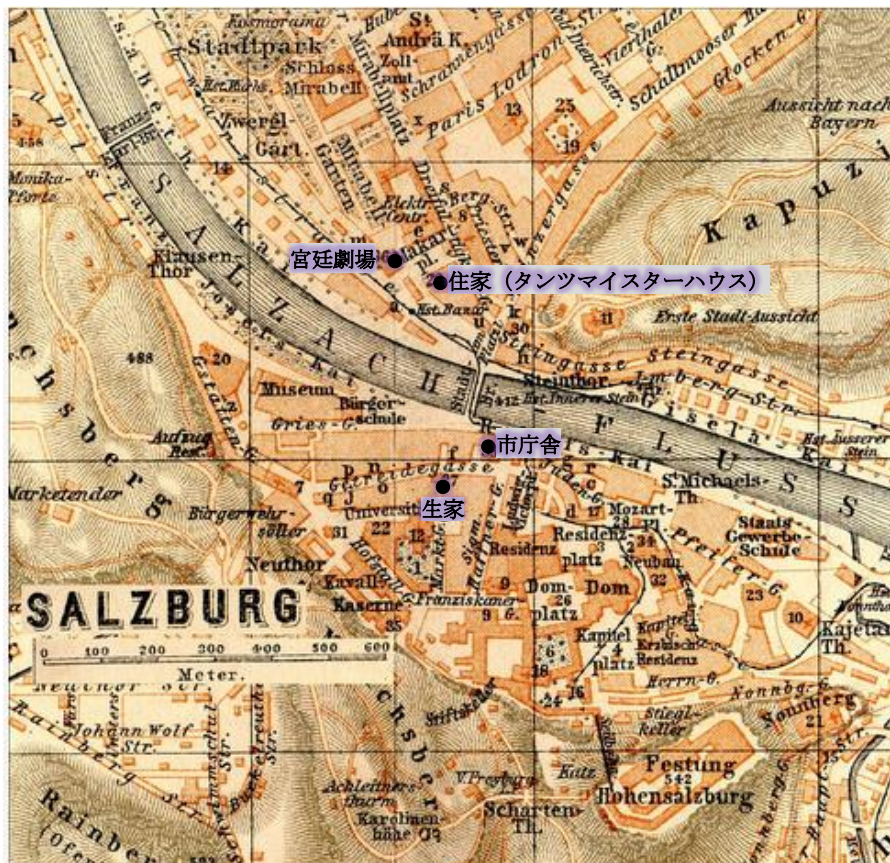
注 6：Le nozze. Drame giocoso per musica di Polisseno Fegejo P. Arcade da rappresentarsi nel Teatro Formagliari l'autunno dell'anno 1755. Dedicato alla nobilissime Dame e Cavalieri di Bologna. - In Bologna : per il Sassi successore del Benacci, [1755]. Sartori 1990 16670 ∞

注 7：Le nozze di Dorina. Intermezzi in musica da rappresentarsi nel Teatro alla Valle dell'illustrissimi signori Capranica nel carnevale del corrente anno 1760. - Roma: Giuseppe e Niccolò Grossi, 1760. Sartori 1990 16724 ∞

注 8：Le nozze. Drame giocoso per musica da rappresentarsi nel Teatro dell'illustrissimo Pubblico di Reggio per la fiera dell'anno 1770. Dedicato a [...] Principessa ereditaria di Modena. - Reggio : Giuseppe Davolio, [1770]. Sartori 1990 16685 ∞

- 注 9 : Fra i due litiganti il terzo gode. Dramma giocoso per musica da rappresentarsi nel Teatro Grande alla Scala l'autunno dell'anno 1782. Dedicato alle ll.aa.rr. il serenissimo arciduca Ferdinando principe reale d'Ungheria e Boemia, arciduca d'Austria, duca di Borgogna e di Lorena ec., cesareo reale, luogo tenente, governatore e capitano generale nella Lombardia austriaca e la serenissima arciduchessa Maria Ricciarda Beatrice d'Este principessa di Modena. - In Milano : Gio. Batista Bianchi, [1782]. Sartori 1990 10899. ∞
- 注 10 : Le nozze di Dorina, o sia Qui tra due litiganti il terzo gode. Opera comica da rappresentarsi sopra il Teatro di s.m.b. - London : printed by G. Woodfall, 1762. Sartori 1990 16731.
- 注 11 : University Oxford ∞
- 注 12 : corago: Le nozze di Dorina, o sia Qui tra due litiganti il terzo gode, Compositore: Cocchi Gioacchino (ca. 1720 - dopo il 1788) ∞
- 注 13 : Sadie, Stanley (2006). Mozart: The Early Years 1756-1781, Oxford University Press, 2006, p.381
- 注 14 : The Itlian Opera Aria on the London Stage 1705-1801 ∞
- 注 15 : Il filosofo di campagna. Dramma giocoso per musica di Polisseno Fegejo p.a. da rappresentarsi nel Nuovo Teatro in proprietà d'un nobile di Cremona. Dedicato a [...] Don Manfredo Antonio Trecchi [...] luogotenente nella città di Cremona del Regio Generale Commissario di Guerra e Stato nella Lombardia Austriaca. - [1760]. Sartori 1990 10365. ∞ なお、1754 ヴェネツィア初演時の第二幕 第 10 場はアリアが異なっている。
- 注 16 : Einstein, Alfred (1937). Mozart et l'opéra bouffe a Salzbourg, in: Revue de Musicologie, T. 18, No. 61 (1937), pp. 1-4 ∞
- 注 17 : 西川尚生 (2005)『作曲家◎人と作品シリーズ『モーツァルト』音楽之友社、2005 年、87 ページ。Salzburger Landestheater ∞. Salzburger Hoftheater ∞. Hübner, Lorenz (1794). Beschreibung der hochfürstlich-erbischoflichen haupt- und residenzstadt Salzburg und ihrer gegenden: vorzüglich für ausländer und reisende. Aus dessen grösserer beschreibung von ihm selbst zusammengezogen, Mayrische Buchhdlg., 1794, p.118-129. ∞
- 注 18 : 前掲 Salzburger Hoftheater
- 注 19 : Schidenhofen, Joachim Ferdinand von (2006). Ein Freund der Mozarts, Die Tagebücher des Salzburg Hofrats (Herausgegeben und kommentiert von Hannelore und Rudolph Angermüller unter Mitarbeit von Günther G. Bauer), Verlag K. H. Bock, 2006.
- 注 20 : 前掲 Salzburger Landestheater
- 注 21 : 前掲 Salzburger Hoftheater
- 注 22 : 前掲西川尚生 (2005)
- 注 23 : 前掲野口秀夫 神戸モーツァルト研究会 第 305 回例会
- 注 24 : 前掲 Einstein (1937)
- 注 25 : Theaterwochenblatt für Salzburg vom 18. November 1775 bis zu Ende 1776 ∞
- 注 26 : 前掲 Hübner (1794)
- 注 27 : 前掲 Einstein (1937)
- 注 28 : Meine Tag Ordnungen: Nannerl Mozarts Tagebuchblätter 1775-1783, mit Eintragungen ihres Bruders Wolfgang und ihres Vaters Leopold, Verlag K.H. Bock, 1998
- 注 29 : 野口秀夫『《ヨハン・ルードルフ・チェルニーン伯爵のためのコントルダンス》K.269b の成立背景、モーツァルト時代におけるザルツブルク市民の舞踏行事』神戸モーツァルト研究会 第 216 回例会 ∞
- 注 30 : 前掲野口秀夫 神戸モーツァルト研究会 第 305 回例会

(作成 : 2024 年 9 月 27 日、改訂 : 2024 年 9 月 28 日)



ザルツブルク 1900-1910 (Creative Commons)